

## FISUEL 年次大会をモロッコのマラケシュで開催 — 2016年5月9日～12日

今年から新たな構成となった FISUEL 年次大会（総会と国際フォーラムを統合して一本化）が、モロッコ FENELEC（電気・電子・再生可能エネルギー全国連盟）の主催により 2016 年 5 月 9～13 日に同国マラケシュ市で開催されました。会期中、5 月 9 日に FISUEL 理事会、10 日午前には 3 地域のワーキンググループ会議（アフリカ、アジア太平洋、欧州）、10 日午後には FISUEL 総会、11～12 日にシンポジウムが開催されました。



この年次大会は「モロッコにおける電気保安の確保に向けた機器制御と市場監視」をテーマとして、マラケシュ市内のケンジファラーホテルで開催されました。

総会では 2015 年度の活動報告・会計報告の承認、及び 2016 年度予算・事業計画の発表と承認が行われました。事業計画は、設備設置者の資格認定、統計、偽造品防止という 3 つの新しいテーマを柱とする内容になりました。

総会では 2015 年度の活動報告・会計報告の承認、及び 2016 年度予算・事業計画の発表と承認が行われました。事業計画は、設備設置者の資格認定、統計、偽造品防止という 3 つの新しいテーマを柱とする内容になりました。



## マラケシュで覚書調印式 — 2016年5月11日



マラケシュでの年次大会会期中に覚書調印式が行われ、韓国電気安全公社（KESCO）、コートジボワール建設・公共工事研究所（LBTP）、セネガル屋内電気設備品質向上協会（Proquelec）、ベナン国内電気設備管理協会（Contrelec）、カメルーン技術センター（Technology Zentrum）の代表者が覚書に署名しました。各機関はいずれも FISUEL 会員として教育訓練や優良事例の共有を通じて電気保安の推進に取り組んでいます。



## マラケシュで年次大会シンポジウムを開催 — 2016年5月11～12日

11日に約70名、12日に約50名の出席者を集めて年次大会シンポジウムが開催されました。現在すべての国の関心事となっている「モロッコにおける電気保安の確保に向けた機器制御と市場監視」をシンポジウム全体のテーマとし、講演者28名全員がこのテーマに直接関連する内容の発表を行いました。

**セッション1**は「統計」をテーマとし、インドネシア、日本、英国、韓国、フランスの代表が各国の電気関連統計に関する発表を行いました。

**セッション2**は「偽造品と市場監視」をテーマとし、モロッコにおける技術的規制と市場監視、日本における電気製品の偽造品の防止対策、英国における偽造品の状況、欧州における市場監視及び支援制度の創設についての発表が行われました。

**セッション3**は「住宅の電気保安」をテーマとし、アフリカにおける電気利用（アクセス）の確保に向けた様々なプロジェクト、セネガルの市場における電気保安、フランスの設備設置者資格認定制度、インドネシアの認証制度、モロッコの電気設備管理規制の対象となる場所、モロッコ公共試験研究所（LPEE）が不適合品の管理に果たす役割、カメルーンの家庭用電気設備の状況、モロッコの新規・既存設備に対する管理制度と最新の指令についての発表の後、ケニアのナイロビに新設された国際電気標準会議（IEC）アフリカ地域オフィスを紹介する発表が行われました。

**セッション4**では韓国電気安全賞の式典に関する証言、電気保安の国別水準を評価するウェブサイト（[www.safetybarometer.org](http://www.safetybarometer.org)）、セネガルにおける電氣的危険・障害（ハザード）防止活動、南米の住宅電気保安制度、安全一カレドニアの再生発についての発表が

その後、アフリカ、の各ワーキンググループ活動報告と2016年いました。シンポジコ FENELEC 理事 Taoufiq 氏 と 夫氏が閉会の挨拶



て会議に尽力した講演者、通訳、技術者全員に感謝の意を表しました。両氏は「全員の講演を通じて、『モロッコにおける電気保安の確保に向けた機器制御と市場監視』が現在世界的に関心を集めているテーマであること、並びに、世界中の電気利用者の安全確保のために我々が協力し合い優良事例を伝え合うことの必要性が改めて確認された」と述べました。

アジア太平洋、欧州のグループが2015年の活動方針発表を行うウムの最後にモロッコ代表・Abounacer FISUEL 会長・中村秋をし、2日間にわたって

## スポンサー各位への謝辞

このたびは FISUEL 年次大会へのご支援を賜りありがとうございました。皆様のお力添えで大会を無事に終えられたことに心から御礼申し上げます。



**欧州銅協会（ECI）**は欧州の銅業界と米国の International Copper Association Ltd.（ICA：国際銅銅協会、本部ニューヨーク、世界の主要な銅採掘企業、製錬所、半加工業者の過半数が加盟）の合併組織として 1996 年に英国で設立され、1998 年か

からベルギーのブリュッセルに本部を置いて活動しています。ECI は業界団体間の国際ネットワークである Copper Alliance（コッパーアライアンス）にも加盟しています。「会員間の連携による優れた技術の活用と生活の質の向上への貢献を通じて銅市場の保護と成長を図る」を ECI 共通の使命（ミッション）として掲げています。

ECI は欧州で国単位の協会 9 組織と連携して活動しており、その中には銅の振興・保護の領域で 80 年以上の経験を持つ協会も複数存在します。会員の持つ技術、専門知識、文化的多様性を基盤にして価値あるサービスを構築し、協会間及び市場に提供しています。ベルギー、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、ポーランド、スペイン、英国に協会オフィスが置かれており、多種多様な領域の専門家約 45 名を雇用しています。冶金学者、科学者、エンジニア、マーケティング専門家、医師、化学者、配管工、製品ライフサイクルアセスメント業者、エコノミスト、エネルギー専門家、微生物学者、建築家、免疫学者、原子物理学者、ジャーナリスト、アナリスト等がこの専門家陣に含まれます。

## モロッコ公共試験研究所（LPEE） 電気検査調査センター（The Centre d'Essais et d'Etudes Electriques : CEEE）



モロッコは、以下のような機能を果たす機関及び人的・物的資源を国内に必要としています。

- 国、省庁もしくは民間の大規模プロジェクトに用いる様々な製品検査・試験・実験
- 問題発生時や慎重に取り扱うべき課題・重要課題に対する専門知と試験・検査に基づく技術的支援、助言もしくは調停

この目的を達するため、モロッコ公共試験研究所（LPEE）は、建設、インフラストラクチャ、水、材料、機械、環境汚染、環境測定、環境産業に関する領域で数十年にわたって様々な専門技術を開発してきました。LPEE は、こうした活動の枠内で、電気設備と電気製品の領域で国家的ニーズに対応する機関として、電気検査調査センター（CEEE）を 1987 年に設立しました。CEEE の設立目的と役割は以下のとおりです。

- 契約仕様や特定規格への適合性を検査する電気製品試験所を設立する
- 国内の製造業者による電気製品改良を支援し（品質管理、認定、認証等）、品質向上、輸出品に負けない競争力の確保、国外での認知確立を図る
- 輸入規制を通じて国内市場の保護に貢献する
- モロッコ電気製品システム標準化委員会の会員組織としての役割を果たす
- 以下の領域で官民の組織を支援するための人的・物的資源を開発する

- 電気設備の性能・動作測定及び、現場での受入試験
- 稼働中の電気設備の調節管理
- 助言や問題対応支援を通じた電気分野全般の専門知識の提供

製品の安全性と電気設備は利用者にとっても CEEE にとっても重要な関心事です。不適合品を使用したり電気設備導入に必要な法令・諸規則を遵守しなかった場合のリスクを利害関係者に認識させる取り組みを CEEE はこれからも続けていきます。



## 第2回インド全国電気保安ワークショップ — 2016年4月12日・於ニューデリー



2016年4月12日、FISUEL 中村会長がインドを訪問し、ニューデリーで開催されたインド全国電気保安ワークショップに出席しました。本ワークショップはインド政府機関の中央電力庁（CEA）とインド国際銅協会の共催で行われました。中村会長は開会式で FISUEL の概要を紹介し、FISUEL へインド組織加盟を募りました。技術セッションでは、「電気保安の基準と規制」、「優事例とケーススタディ」、「接地（アース）、

避雷、アークフラッシュ」、「新しいテクノロジーと応用領域」をテーマとするセッションがそれぞれ行われました。セッション中、FISUEL 会員の電気保安協会全国連絡会（FESIA）関東電気保安協会の本多隆氏が「電気事故統計と日本の検査制度」と題する講演を行いました。

中村会長は、CEA 長官 Singh 氏、消費者庁次官補 V.R. Sastry 氏、中央公共事業局特別局長 M. Joshi 氏、内務省消防総局消防顧問 Shami D. K.氏、インド防火保安協会会長 Pankaj Dharkar 氏と会合を行い、意見交換を行う一方で、FISUEL へのインド組織加盟についての希望を表明しました。

中村会長はこのほかに、4月14日に開催された「消防の日」記念式典に内務大臣 Shri K. Rijju 氏とともに出席しました。

## ICA（国際銅協会）からの報告

ICA インド支部がインド中央電力庁（CEA）・インド規格局（BIS）との共催で「第2回インド全国電気保安ワークショップ」を開催

本ワークショップは「インド国内の電気保安」に関する国内有数の交流促進の場

**【2016年4月12日、デリー】**電気は私たちの生活に欠かせないものであり、安全かつ効率的に利用することが大切です。しかし、電気関連の事故や火災で毎年多くの方が生命を失っているのが現状です。電気による年間の死亡・負傷者数を減らす方法の一つとして、電気の概念についての理解徹底を図る必要があります。しかし規制要件の複雑さのために、多くの保安専門家がこの課題に十分に対処できていないようです。インド国際銅協会（ICA インド）は電気保安に関するセミナーやワークショップを全国各地で開催しており、その一環として「第2回インド全国電気保安ワークショップ」を2016年4月12日にデリーで開催しました。電気設備の保安基準の遵守確保に向けた規制の概要を参加者に説明し、遵守の必要性を呼びかけることがワークショップの目的です。

全国犯罪記録局の2014年度報告書によれば、短絡・漏電（ショート）による感電と火災に起因する2014年の年間死亡者数は11,000人となっています。また、ビル火災の主な原因として「電気システムの欠陥・不具合」が第1位に挙げられています。インド政府はこの領域の問題を非常に重要視しています。しかし残念なことに、お粗末な慣行、不適切で脆弱な設備、サイズが小さく低品質のビル内電線などにより、電気事故の発生件数が増加しているのが現状です。

第2回全国ワークショップの目的は、利害関係者（ステークホルダー）間で電気保安に対する認識向上を図り、上記のような状況の中でいかにリスクを軽減するかという意識を広めることです。電気設備の設置、操作、修理、運転実施時の安全対策と注意事項、並びに改正基準の遵守確保の必要性を業界専門家に説明し認識を向上させるために、ICA インドは専門家団と共同で本ワークショップを主催しました。

当日は、ICA インドの取り組みの一環として、「建物内の電気—適正業務実践ガイド」と題する書籍の出版発表も行いました。同書には、適切な電気取扱事例を集めたケーススタディや、環境配慮型都市（スマートシティ）と省エネ化への移行に必要な配電条件の解説などを収録しています。ワークショップでは、諸外国の経験に関する情報・知識を業界の利害関係者間で共有する必要性と、電気技師免許所有者を関係者に含める必要性が強調されました。多方面の専門家団と官民の幹部クラスがワークショップに終日参加し、中央電力庁（CEA）長官 Major Singh 氏、インド規格局（BIS）副局長 D. K. Nayyar 氏、FISUEL 会長・中村氏、CEA 委員（PS）でインド政府代表副次官の S. D. Dubey 氏、国際銅協会インド支部（ICA インド）専務理事 Sanjeev Ranjan 氏が要人として開会式に出席しました。ワークショップとパネルディスカッションは産業界から多数の参加者を迎えて大盛況を博しました。

当日は参加者が一堂に会し、他国の同業者と経験共有や交流を行い、優良事例を学び、定期検査を適時に実施する必要性を学びました。その結果、本ワークショップは国内の電気保安に関する重要課題を話し合う場として機能しただけでなく、インドの電気インフラストラクチャに関する基準と規制の周知促進という役割も果たしました。

ワークショップでは以下の4つのセッションが行われました。

- 第1セッション：電気保安の基準と規制
- 第2セッション：優良事例とケーススタディ
- 第3セッション：接地（アース）、避雷、アークフラッシュ
- 第4セッション：新しいテクノロジーと応用領域



!!!!!!!!